

人権教育のための調査研究モデル事業 「人権問題学習講座(参加体験型学習プログラム) 事例集」「人権教材『いろいろな人権問題』」の作成

津島市人権教育調査研究委員会
愛知県津島市市民経済部人権推進課
TEL 0567-24-1111

研 座 演 沙 資 映 他 体 ワ

実施年月日 実績等	平成16年度通年(8回の調査研究委員会を開催) 4講座の参加人数: のべ63人 作成した事例集(冊子)および教材(CD-ROM): 500部
主催(共催)	津島市人権教育調査研究委員会
開催場所	津島市文化会館、中央公民館
対象	講座=一般 教材=社会教育関係職員や団体、企業研修担当者
人権課題	講座=外国人、同和問題、障害者、女性 教材=同和問題、女性

事業の目的

人権教育は、頭で理解するだけでは不十分であり、自らの行動に反映されて初めて人権教育と言える。しかし、従来の講演や講義を中心とした学習講座では、参加者は受身になることが多く、その場では理解しても、なかなか納得して行動に移せないという課題を感じていた。

そこで、参加・体験型の学習形態を講座に取り入れ、自らの思いを語り合い、主体的に学習を進めるなかで人権問題に対する理解と認識を深める構成についての研究を進め、その成果を事例集という形で情報提供することで、人権に関する学習内容の充実を図ろうとしたものである。

また、人権学習教材「いろいろな人権問題」の作成は、これまでの人権教育推進事業で培った講座運営の手法を他の市町村などに提供することを目的とした。これについては、とくに人権に関する学習機会の普及に資するために、「指導者の養成や、人権学習の最初の一步に活用される教材」を開発テーマとした。

なお、この事業は、文部科学省の委託(愛知人権ファンクション委員会の再委託)により、研究・作成したものである。

事業概要

○「人権問題学習講座(参加体験型学習コース)」(全4回)の開設、および事例集の作成
人権に関わる4つの講座を開設。いずれの講座も120分間で、土日の午前中に実施した。終了後には参加者からアンケートを回収して問題点を洗い出した。

①外国人「韓国文化とふれあおう」/韓国家庭料理実習/参加



人権問題学習講座①「韓国文化とふれあおう」



人権問題学習講座④「社会に生きる女性・男性」

人数: 19人

韓国籍の料理研究家を講師に招き、参加者が皆で韓国料理を作って味わい、その文化に触れた。

②同和問題「津島の今昔物語～同和問題」/パネルディスカッション/参加人数: 16人

パネラーとして同和地区の代表者を招き、同和地区の歴史や、周辺地区との関わり、また津島の同和地区の特徴などを学んだ。資料と照らし合わせて話し合いを進め、活発な意見交換が行われた。

③障害者「共生を実現しよう」/車いす体験/参加人数: 14人
自身も下半身マヒのため車いすを使用する講師より、乗り方や注意点などの指導を受けた後、実際に市内を走行して感想を話し合った。

④女性「社会に生きる女性・男性」/グループワーク発表: 参加人数: 14人
過去の新聞紙から、男性と女性の写真が掲載されているカットを切り抜き、双方の取り上げられ方の違いに着目した。

○人権教材(CD-ROM)「いろいろな人権問題」の作成
過去に実施した人権に関わる講座の情報を集約し、「同和問題」「女性の権利」の二つの題材について、Microsoft Power Point2002を用いて各20枚前後のスライドを作成し、CD-ROMにまとめた。

特色・工夫した点

○講座の運営では、参加者が能動的に考え、行動し、各講座の課題に対して自由に意見を発表できる場・雰囲気をつくることに努めた。

○教材(事例集及び教材CD)の作成では、誰もが人権問題の基礎をしっかりと学べるように、操作性を確保しつつ、飽きさせない内容のスライドに仕上げるように工夫した。

○作成した教材は、愛知県下のすべての社会教育関係の窓口に配布した。

実施結果

参加者の反応・事業の反響等

○外国の文化を紹介する講座では、あえて講義などによる学習は設けなかったが、参加者からは「ぜひ韓国の方に日本の郷土料理も食べてもらって感想を聞きたい」といった反応がみられ、食文化体験を切り口とした異文化理解の有効性が確認できた。

○同和問題を理解する講座では、「実際に同和地区の方と話すのは初めの経験だった」「講座を受ける前は怖いという思いがあり、近付くことができなかった」といった感想があった。それを受けて「なぜ、怖いと思ったのか」などと話し合いが深化し、意義のある講座となった。

○バリアの実態を学ぶために実施した車いす体験では、「ちょっとした段差にも怖い思いをした」などと、普段は気付かない場所にもバリアが存在することを意識した参加者が多かった。また、10数台の車いすが市内をめぐるこうした光景は、通行人の意識をも高める効果があるとの意見も出され、次年度以降は、より人通りの多い場所を選ぶなどして、市民の啓発につなげることも検討したい。

○メディアに見られるジェンダーを検証するために新聞に掲載された男女のカットを切り抜く取り組みでは、男性がスーツを着込んで何らかの肩書きとともに取り上げられていることが多いのに対し、女性は肌を露出した写真が少なくないなど、女性の「商品化」に気付き、指摘する参加者が多かった。

反省点・今後の課題

○参加体験型の学習形態では、どうしても受講者の数が制限されてしまう。そうした限られた学習機会の質を向上させると同時に、それぞれの人権課題への理解を深めるための主体的な学びの輪を生み出し、それを広げられるような環境を醸成する必要があると感じた。



人権問題学習講座③「共生を実現しよう」